

市立病院 だより

今ある危機 切除不能・進行胃がんが増えています

外科部長 兼 乳腺外科部長 西野 雅行



兵庫医科大学卒業。平成16(2004)年から当院で勤務。日本外科学会専門医、日本消化器学会専門医、日本乳がん学会乳腺専門医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本内視鏡外科学会技術認定取得者、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

50歳を過ぎると急激に胃がんのリスクが高まります

男性の9人に1人、女性の19人に1人が、一生のうちに胃がんと診断されます。国立がん研究センターの統計によると、令和元(2019)年に日本全国で胃がんと

診断されたのは124,319人です。令和2(2020)年の死亡数は42,319人、胃がんの死亡率は男性では肺がんに次いで2位、女性では4位と報告されています。

年齢別に見ると、50歳を過ぎるころから、胃がんに罹るリスクが急激に高まります。原因は、胃がんの発生要因であるヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)や喫煙などが考えられています。ピロリ菌の感染率は、30歳代で40%、40歳代で50%と年齢が上がるほど上昇し、70歳以上では80%に達します。一方、胃がんの死亡率は治療技術の進歩と主たる原因であるピロリ菌の治療、喫煙率の低下で年々減少傾向です。

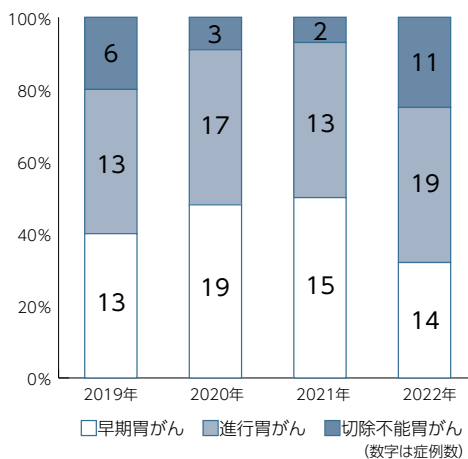
コロナ禍でがんの早期発見が遅れるケースも

新型コロナウイルスの影響で、検診や病院受診を控える傾向が強まり、がんの早期発見・治療が遅れる事例が発生しています。(図1)

胃がんは、早期胃がんであれば90%完治し、進行胃がんでも60%が完治するといわれています。

がん全般の予防においては禁煙、節度のある飲酒、バランスの良い食事、適度な運動、適正な体形の維持などが大切です。特に胃がんの場合は、禁煙、塩分の取りすぎに注意すること、ピロリ菌の除菌が有効であることが分かっています。

(図1)市立病院における進行度別 胃がんの年次推移



早期発見のために

がん検診の目的は、がんを早期発見し適切な治療を行うことです。本市では胃がん検診として、40歳以上の人を対象に胃部X線検査(バリウム検査)を実施しています(本誌31面参照)。検査の結果が「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けましょう。

胃がんは早期発見・治療をすれば治る可能性が高い病気です。がんの予防・検診に努め、気になる症状があるときには検診を待たずにかかりつけ医に相談の上、紹介状を持って当院を受診してください。

※紹介状がなくても当院を受診できますが、初診時選定療養費がかかる場合があります。